

令和7年度学校自己評価システムシート（私立 立教新座高等学校）

目指す学校像		キリスト教に基づく人間形成を実践し、自由と自律を尊重する開かれた学校を目指す。			
重 点 目 標		1 興味や関心を伸張して、自主的にテーマを持って真理を探究する力を養う。 2 グローバルリーダーにふさわしい国際感覚を備えた人物を育成する。□ 3 他者を尊重し、学校生活を通じて共に成長する他愛に満ちた人格を育む。			
		達成度		A ほぼ達成(8割以上) B 概ね達成(6割以上) C 変化の兆し(4割以上) D 不十分(4割未満)	
学 校 自 己 評 価					
年 度 目 標		年 度 評 価 (3 月 3 1 日 現 在)			
番号	課 題	課題に対する取り組み	達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	・一貫連携教育の充実	・立教大学教員によるプログラムの継続と充実 ・特別聴講生制度・GLP受講制度の継続と充実 ・立教大学の各種キャリア教育プログラムの充実	・高1立教大学説明会、立大教員による特別授業 ・高2、高3学部学科説明会実施 ・立教大学特別聴講生9講座(15名)、GL101科目(12名)受講 ・大学キャリアセンターの協力を得て高1キャリア教育の実施 ・立教学院「高校卒論発表会」参加	B	・各種プログラムの継続と充実 ・特別聴講生参加者増加に向けての案内の工夫
	・卒業研究論文指導	・卒論演習講座に原則一本化の実施 ・教員向け共通テキストの導入 ・指導や評価のあり方に関する審議の継続	・卒論演習講座34、卒論対応講座4、計38講座の確保 ・教員向け共通テキストの導入 ・指導や評価基準の確認 ・プレゼンテーション、口頭発表機会の導入		・研究倫理を学ぶ機会の導入 ・指導や評価のあり方について継続審議
	・教職員研修	・研修への参加奨励 ・研修を受けやすい環境の整備	・教科、部署、部活動等における研修に参加 ・ハラスメント防止対策委員会・人権教育推進委員会共催講演会「保護者対応」の実施 ・学院主催のハラスメントに関するオンライン研修(1回)受講 ・応急処置研修会「熱中症、アナフィラキシーの対応」、心肺蘇生法実習の実施 ・ICT講習会実施(複数回)		・研修の充実 ・研修を受けやすい環境の整備 ・非常勤講師を含む教職員全体に対する研修への参加奨励
	・教育環境の整備	・ICTを活用した教育活動の充実 ・教務システムBLENDの利用拡大 ・ICT環境の整備 ・各施設・設備・安全および老朽化対策	・BYODによる端末準備を推進、ICTを活用した教育活動の展開 ・図書館学内データベースの利用拡大 ・希望する教科・科目による定期試験答案のデジタル返却 ・教務システムBLENDを利用した通知表デジタル開示、メール配信 ・ICT環境の整備(教員用iPad更新、ICT環境の整備(ICT支援員の配置(2名継続)) ・施設・設備・安全及び老朽化対策(セントポールズ・ジムの空調更新、3号館校庭漏水対策)		・ICTを活用した教育活動のさらなる充実 ・ICT環境の整備(教員用iPad更新、ICT支援員の配置(2名継続)) ・施設・設備・安全及び老朽化対策(礼拝堂・チャペル会館空調更新)
2	・人権教育やボランティア活動	・人権教育の充実 ・ボランティア活動の機会の提供 ・いじめ・ハラスメント問題の啓蒙活動 ・いじめ防止対策の充実	・人権週間(6月)のチャペルアワー講話 ・学年ごとにテーマを決め人権教育実施 ・いじめアンケートを年2回実施 ・「教職員研修」記載の研修実施 ・各種講演、ボランティア活動に関する学外プログラムを生徒用ホームページにて案内	B	・人権教育の継続 ・実施可能なボランティア活動の機会提供 ・いじめ・ハラスメント問題の認識深化に向けた啓発活動
	・情報リテラシー教育	・インターネットの安全な利用やマナーの指導	・全学年、外部講師による講習会を実施		・講習会の継続
	・グローバル教育 ・リーダーシップ育成	・学校派遣留学学校の維持・充実 ・リーダーシップ教育の維持・充実	・留学生(短期:米国1名、英国3名)の派遣 ・英国サマースクール、ギャップイヤー留学、UK-JAPAN Young Scientist Workshop、ブリティッシュヒルズ英語研修、英語科、理科、宗教科、芸術科海外研修旅行の実施 ・立教大学在籍の留学生との国際交流プログラム実施 ・高1,2学年、文化部・体育部でリーダーシップ研修実施 ・リーダーシップ育成PT主催による講演会実施 ・高2校外研修旅行における高1への発表活動		・派遣留学学校及び留学生受入校の維持・充実 ・リーダーシップ教育の充実 ・留学生受け入れ
3	・学校生活の支援	・学友会活動のサポート ・多様な進路に対する支援 ・スクールカウンセラーとの連携 ・特別支援教育の充実 ・学校活動の可視化	・高1,2学年キャリア教育実施 ・生活のアンケートを各学期に実施。心配な生徒についてはその後担任面接、さらにはスクールカウンセラー等の面接実施 ・特別支援教育委員会主催の教職員向け講演会を実施 ・特別支援対象の生徒のスクリーニングの実施 ・広報誌のweb化と充実 ・Facebook、Instagramの充実	B	・保護者会や同窓会との連携強化 ・広報活動の継続と充実
学 校 関 係 者 評 価					
実 施 日 令 和 8 年 6 月 1 5 日					
学校関係者からの意見・要望・評価等					
高大連携プログラムが多面的に実施され、主体的な進路選択の機会となっている点を高く評価する。今後は生徒間の受け止め方や興味の温度差を埋める工夫を重ね、魅力あるプログラムの周知体制をさらに充実していただきたい。また、立教が掲げるリベラルアーツの「香り」が薄いと感じる部分もあるため、一貫連携教育の強みを活かし、その精神をより深く浸透させる教育活動の展開を期待する。					
演習講座の整備や共通テキストの導入、口頭発表の機会創出など、組織的な指導体制が構築され、探究力を育む取り組みが進んでいる点を高く評価する。次年度に向けて研究倫理や著作権等のコンプライアンス指導を導入する方針を支持する。一方で、個別の論文指導・評価における教職員の負担が極めて大きい点には留意し、客観的で透明性の高い指導体制の構築を継続してほしい。また、生徒側からの率直なフィードバックの機会を設けることや、保護者へ家庭での見守り方・支援方法を分かりやすく示すことを期待する。					
ハラスメント防止、救急救命、保護者対応など、現代の教育現場に不可欠なテーマの研修が組織的に実施されている点を評価する。今後は、多忙を極める教職員の心身の健康やSOSを受け止める環境整備が必要不可欠である。オンライン研修の充実など受講環境を整え、時間の制約がある非常勤講師など含む全教職員に対して、ハラスメント、SNS、AIの危険性に関する各種研修への参加を徹底させていただきたい。部活動を支える外部指導員の待遇と在り方も、慎重的な審議を期待する。					
BYOD端末の導入推進や、教務システム「BLEND」の運用による通知表・試験答案のデジタル開示など、学校DXが実効性をもって総合的に推進されている点を高く評価する。施設面においても、老朽化対策や安全対策、礼拝堂・チャペル会館の空調更新計画など、確実な予算執行による環境整備が進むことを期待する。今後は、AIを単なるツールとしてではなく、生徒各自が将来の「武器」として積極的に活用できるよう、教育活動の中にさらに深く取り込んでいただきたい。					
年2回のいじめアンケートの実施や人権教育の継続、ボランティア機会の提供など、他者を尊重する多角的なシステムが運用されている点を評価する。一方、いじめなどに対する説明の曖昧さに不信感を抱くことがあり、対応の早急さや調査の充実など初期対応の徹底・改善を強く求める。今後は教職員・生徒双方の認識レベルをさらに引き上げるとともに、学院の外部窓口の有効活用などが望まれる。ボランティア活動の機会拡充のため、大学ボランティアセンターとの相互連携も必要である。					
全学年を対象とした外部講師によるインターネット安全利用やマナーに関する講習会が、確実に実施されている実績を高く評価する。利便性の裏に潜む危険性については引き続き丁寧な指導を望むとともに、専門家による、より説得力のある講習の実施が求められる。今後は、生成AIの利用や著作権、個人情報、SNS上のトラブル予防など、社会変化に応じたテーマも継続して扱っていただきたい。					
多様な海外研修プログラムや立教大学の留学生との国際交流、部活動を巻き込んだリーダーシップ研修など、独自の教育活動が質・量ともに極めて充実している点を高く評価する。一方、海外研修プログラムの種類を増やすだけでなく、絞り込んでいく視点も求められる。また、グローバルリーダーの育成を掲げる以上、一部の生徒だけの成果に留まらず、大部分の生徒が高校卒業時に英語で日常会話ができるような、ボトムアップの語学教育推進を期待する。					
生活アンケートや担任との個人面談、スクールカウンセラーとの連携や特別支援教育のスクリーニングなど、生徒の課題を早期に発見・多層的に支援する仕組みが組織的に機能している点を高く評価する。Webを活用した活動の可視化や発信力の向上も成果を上げている。今後は、これらに派生して、日中活動や部活動の在り方といったより良い学校生活にするための提言を生徒から気軽に学校側へ聞き取れる機会を設けてほしい。また、保護者会・同窓会との連携強化に努めていただきたい。					